

「体腔液細胞診における免疫細胞化学的手法を用いた研究」のお知らせとお願い

体腔液とは、肺や消化器、心臓等を保護している膜の中（体腔）に含まれている液体で、胸水、腹水、心臓液に分けられ、様々な原因で溜まることがあります。この原因の一つが体腔液中への腫瘍細胞の出現であり、患者さんから採取された体腔液中の細胞に色をつけて標本にした後、顕微鏡で観察し腫瘍細胞の有無を形をみて調べる方法が細胞診検査です。

体腔液中には、正常および病的な状態でも中皮細胞という体腔を覆う細胞が出現していますが、様々な要因により中皮細胞の形が変化すると、腫瘍細胞と形をみて分けることが困難となります。

私たちの研究では、体腔液中の中皮細胞と腫瘍細胞がどのような蛋白をもっているかを調べて、これらの細胞を分けることを目指しています。

本研究は、2008年7月から2014年10月までの間、当院にて胸水、腹水、心臓液の採取をされた方の細胞診標本及び診療情報を使用し、蛋白に色をつける方法（免疫細胞化学）で調べて、中皮細胞と腫瘍細胞の差異を比較するものです。診断後に当院検査部に保存されている、細胞診標本を使用しますので、研究のための追加検査や、患者さんから新たに検体を採取することはありません。

本研究では、細胞標本や診療情報等の個人情報には匿名化によって管理され、個人が特定されることはありません。公的な発表に関しては個人が決して特定されないように留意いたします。

上記の期間に当院にて胸水、腹水、心臓液の採取をされた方で、ご自身の細胞診標本や診療情報を研究に使用しないで欲しい、というご希望があれば、下記の連絡先までご連絡頂けますよう、よろしくお願い致します。

尚、研究への使用を拒否されても、防衛医科大学校病院における診療には全く影響はなく、いかなる意味においても不利益を被ることはございません。

連絡先：埼玉県所沢市並木 3-2

防衛医科大学校病院 検査部（病理）

TEL: 04-2995-1511（内線 3323）

研究代表者 織田 智博